

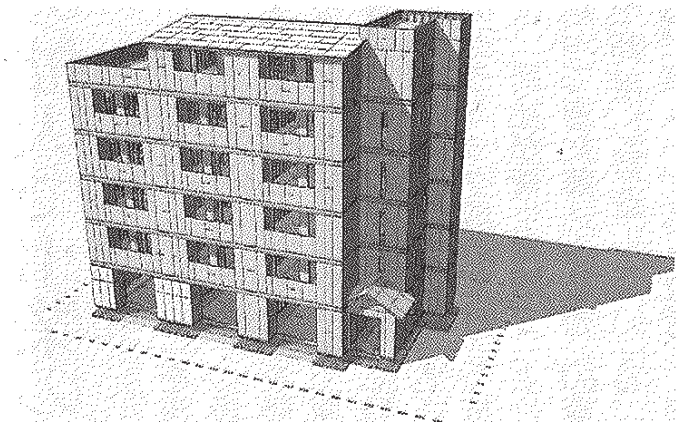
2×4CADの活用増える

アパート、非住宅など中大規模物件で

ネットイーグル

ネットイーグル（福岡市、祖父江久好社長）の2×4CAD「XF24」は、階数や規模にかかわらず入力でき、許容応力度計算にも対応できるのが特徴で、4月の法改正後に構造計算の対象範囲が広がったアパートや中大規模物件で利用されるケースが増えている。最近では九州で建設された5階建て（1階RC、2～5階2×4）、延べ床面積1708坪の集合住宅3棟の構造設計にも使用された。

XF24は2×4工法向けのプレカットCAD/CAMシステムで、床、壁、屋根の一体設計と全自動プレカットが特徴。オプションで同CADと直結連動する構造計算（許容応力度計算）システム「NSC24」があり、構造設計から構造計算、木拾い積算、タルキの3次元加工、シーシングマシンによる釘打ち、面材の加工までデータ連動による自動化を実現している。



アパートや中大規模物件での採用が増えている

NSC24は、XF24の構造データと同社の基礎CADのデータを使って構造計算するため、基礎まで一体的に構造計算でき、構造計

算結果と構造図、プレカットの加工内容が完全に一致する。特に2×4工法は4月の改正建築基準法の施行でアパートの多くが構造計算の対象になり、大手賃貸住宅会社をはじめ、同社のCADで構

造計算に対応する物件が増えている。XF24、NSC24とも面積制限がなく、XF24は今年5月のバージョンアップで5階建て以上（10階まで）にも対応したことで、現状建築されるあらゆる規模、階層の2×4建築の入力、加工に対応できる。

今年7月末に竣工した5階建ての集合住宅は自動車メーカーの寮で、1棟200室、3棟合計600室。1階がRCの混構造だが、基礎を同社の基礎CADで入力し、壁をコンクリートに見立てて疑似的に入力。RCとの取り合い部分を含めて2階以上をXF24で入力した。

XF24はオプションで石膏ボードの入力にも対応しており、1時間耐火構造に必要な強化石膏ボード2枚張りも入力できる。BIMの標準フォーマットであるIFCデータを受け渡し可能で、来春以降、段階的に導入されるBIM図面審査にも対応できる。

祖父江社長は「新設住宅着工が減少するなか、これからの成長分野は非住宅であり、プレカット、コンポーネント業界の発展を止めないためにもこの分野を成長させていくことが我々の使命。今後是非住宅対応を中心に機能の充実を図っていく」と話す。